

日本グループ・ダイナミクス学会会報

ぐるだい

JGDA
ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/index.php>

第 3 5 号
(2009年4月13日)

発行所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院教育発達科学研究科 吉田俊和研究室
日本グループ・ダイナミクス学会
e-mail: sec-general@groupdynamics.gr.jp
発行人：吉田 俊和, 編集担当：西田 公昭

《 目 次 》

- § 学会役員の改選・交代について 1
 - 新会長の挨拶：浦光博
 - 退任にあたって：吉田俊和
 - 役員改選選挙の経過および結果報告：釘原直樹
- § 学会大会の開催について..... 5
 - 日本社会心理学会50周年大会・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会への
お誘い：大坊郁夫
- § アジア社会心理学会について..... 6
 - アジア社会心理学会2009年度大会へのお誘い：唐沢かおり
- § 事務局からのお知らせとお願い / 広報担当からのお知らせ / 諸連絡先 6

学会役員の改選・交代について

新会長の挨拶

浦 光博 (広島大学)

この4月より2年間、会長を務めさせていただくことになりました。新体制の発足にあたりひとことご挨拶を申し上げます。

本学会は長い伝統を基盤としつつ、革新的な変革とその堅実な定着とを繰り返すことで発展して参りました。最近においても、2007年度に創設された年次大会での優秀発表論文賞の選考はすでに多くの若手研究者の研究を奨励するものになりました。また、本年度からはアジア社会心理学会発表支援制度が発足します。さらに、機関誌「実験社会心理学研究」は、多様な領域の会員からの積極的な投稿に支えられ、順調な刊行が維持されるようになりました。

これらの発展を確実なものにし、より大きな発展につなげるため、向こう2年間の執行部のミッションとして「研究の国際化と学際化の推進」を掲げたいと考えます。

まず研究の国際化の推進について申し上げます。本学会はすでにアジア社会心理学会との緊密な関係を確立し、毎回の大会には本学会から多くの会員が参加しております。上述の発表支援制度の創設により、さらにこれが堅実なものになることが期待されます。これらのことは「学会の国際化」が安定的な状態になったことを示すものと言えます。その一方で、では本学会内で行われている「研究」の国際化が果たしてどれだけ実現しているかを考えたとき、必ずしも「学会」の国際化の水準に見合うものにはなっていないのではないかと思考します。

ただしこれは、会員のみなさまの研究の水準が低いことを意味するものではありません。それどころか、私自身、過去2年間、常任理事として機関誌の編集に携わって参りましたが、多くの投稿論文が極めて高い質を持ち、国際的な水準を超えていることを実感してきました。このようなことを申し上げるのは前編集委員長として不適切かもしれませんが、それら優れた投稿論文について「なぜ、国際誌に投稿されないのだろうか」と訝ることが少なくなかったというのが実際のところです。

せっかくの優れた論文です。あと一手間かけて英語論文化し、AJSPをはじめとする国際誌への投稿を目指していただきたい。とは言え、この一手間に大きなコストが伴うことも承知しております。したがって新体制では、理事、常任理事のみなさまのご協力を仰ぎながら、このコストを少しでも減らすことのできる実効ある制度の発足を目指したいと考えています。

次に研究の学際化の推進について申し上げます。本学会には多くの異なった志向性を持つ会員が参加しておられます。これらの多様性を生かすことは、本学会の発展にとって重要であるだけでなく、より広い意味での学術的な発展に大きく寄与するものになると確信しています。そのためには、隣接諸領域に向けてのより積極的な情報発信と提携への働きかけが必須です。この点についても、向こう2年間でさまざまな試みを重ねていきたいと考えております。

申し上げるまでもなく、これらのミッションの実現にとって何よりも必要なことは、会員のみなさまの高い志です。おそらく私たちにできることは、その志を具体的な活動へとつなげるために、みなさまの背中を少し後押しすることであろうと考えております。より一層のご協力をお願いする次第です。

退任にあたって

吉田俊和（名古屋大学）

会長に就任した際には、2年間は長いと思っていましたが、終わってみれば、昨日のことのようです。もちろん、このような戯言ことを言っておられるのは、常任理事・理事のみなさまのご支援があったおかげです。あらためて感謝申し上げます。

就任時には、学会の活性化のため、会員数の増加、大会発表数の増加、機関誌『実験社会心理学研究』の質と量の充実等を訴えましたが、いずれも目に見えた成果を上げることはできませんでした。会員数につきましては、会費の滞納を厳格に処理していることの影響もあります。大会発表数に関しては、昨年の大会（広島大学）で大学院生に対する発表支援費の決定をしたことで、今後の増加が予想されます。機関誌の質と量の充実は、最初の1年目で、やっと正常な年度に追いつく刊行ができました。量としての投稿論文数も順調に推移しており、質的な面でも充実した内容の論文が満載されることを願っています。

若手研究者の士気を高めるために、3年前から始まった優秀学会発表賞もすっかり定着し、アジア社会心理学会での発表支援制度も今年から始まります。どうか奮ってご応募していただきたいと思います。若手に厚く、一般会員に対する恩恵（会費の値下げ）はないのか、というご意見もありますが、大会発表費の支援等、まず若手研究者の支援を優先させていただきました。今しばらくの会費据え置きをご堪忍いただきたいと思います。

在任時一番の吉報としては、本学会の機関誌が、J-STAGEの電子アーカイブに選ばれたことです。いわば、価値ある学会誌の一つとして認定されたことです。若手研究者のみなさまは、自信を持って良質な論文をどんどん投稿して下さるようお願いします。

4月からは、新しい執行部体制で、日本グループ・ダイナミックス学会がさらなる発展を遂げていくことを期待しています。

2009-2010年度役員選挙の経過と結果

選挙管理委員会委員長 釘原直樹（大阪大学）

選挙管理会：釘原直樹（委員長）、田垣正晋、諏訪晃一

選挙管理事務局：矢守克也（常任理事）

(1)会長、理事、監事選挙

選挙方法及び期間：全会員を対象に郵送投票、2008年11月10日～11月28日

開票：2008年12月6日、大阪大学人間科学部33講義室

作業者：選挙管理委員会、選挙管理事務局員

作業補助者：木村昌紀（大阪大学人間科学部助教）、毛 新華（同）

投票総数 192 無効投票 18
 (内訳) 内封筒なし 2
 ✂切後到着14
 投票用紙に投票者名（捺印）2

地区別有効投票数

	有効投票
北海道	9
東北	4
関東	39
中部	35
近畿	58
中国・四国	16
九州	13
沖縄	0
計	174

会長選挙結果

	氏 名	得票数
当選	浦 光博	74
次点	矢守克也	42
次次点	吉田俊和	16

全国区理事選挙結果

	氏 名	得票数
当選	山口裕幸	77
当選	西村太志 *	55
当選	唐沢かおり	49
当選	矢守克也	44
当選	渥美公秀	42
当選	東村知子 *	39
当選	山口悦子	37
当選	鈴木 勇 *	37
当選	三浦麻子 *	31
次点	角山 剛	28
次次点	小川一美 *	25

監査選挙結果

	氏 名	得票数
当選	杉万俊夫	43
当選	村田光二	40
次点	斎藤和志	9
次次点	外山みどり	6

辞退
 当選
 次点

* 40歳未満

地区別理事選挙結果

北海道		
	氏 名	得票数
当選	今川民雄	5
次点	結城雅樹	3

東北		
	氏 名	得票数
当選	大淵憲一	4

関東		
	氏 名	得票数
当選	相川 充	11
当選	北村英哉	3
次点	外山みどり	3
次次点	松井 豊	3

抽選による

中部		
	氏 名	得票数
当選	西田公昭	25
次点	杉浦淳吉	4

近畿		
	氏 名	得票数
当選	諏訪晃一	25
当選	石盛真徳	11
次点	中谷内一也	5
次次点	吉野絹子	2
	渥美公秀	2

抽選による

中国・四国		
	氏 名	得票数
当選	磯部智加衣	6
次点	坂田桐子	6

抽選による

九州		
	氏 名	得票数
当選	ハッ塚としえ	5
次点	有倉巳幸	2
次次点	笹山郁生	2

抽選による

沖縄		
	氏 名	得票数
当選者なし		0

(2)会長指名理事信任投票

方法及び期間：選出理事18名によるメール投票、2008年12月27日～2009年1月3日

投票結果

	信任	不信任
高良美樹	18	0
坂田桐子	18	0

(3)常任理事選挙開票

選挙方法及び期間：理事21名を対象に郵送投票、2009年1月9日～1月22日

開票：2009年1月29日午前8時00分～8時30分、京都大学防災研究所巨大災害研究センター会議室

作業：選挙管理委員会委員、選挙管理事務局員

投票総数

投票者数21、投票総数84

選挙結果	得票数	
西田公昭	14	当選
相川 充	13	当選
唐沢かおり	13	当選
山口裕幸	12	当選
矢守克也	8	次点
渥美公秀	7	
鈴木 勇	7	
東村知子	7	
今川民雄	1	
坂田桐子	1	
三浦麻子	1	

(4)会長指名常任理事信任投票

方法及び期間：会長を除く理事20名によるメール投票、2009年2月1日～2月5日

投票結果

	信任	不信任
西村太志	20	0
矢守克也	20	0

2009-2010年度日本グループ・ダイナミックス学会役員一覧

会長	浦 光博	全国区理事	渥美公秀 唐沢かおり 鈴木 勇* 西村太志* 東村知子* 三浦麻子* 山口悦子 山口裕幸 矢守克也
常任理事（選出）	相川 充 唐沢かおり 西田公昭 山口裕幸	地区別理事 (北海道) (東北) (関東) (中部) (近畿) (中四国) (九州) (沖縄)	今川民雄 大淵憲一 相川 充 北村英哉 西田公昭 石盛真徳 諏訪晃一 磯部智加衣 ハッ塚としえ (当選者なし)
常任理事（指名）	西村太志 矢守克也	会長指名理事	坂田桐子 高良美樹
		監査	斎藤和志 杉万俊夫

*40歳未満枠
アイウエオ順

学会大会の開催について

日本社会心理学会50周年大会・日本グループ・ダイナミックス学会第56回大会へのお誘い

合同大会準備委員長 大坊郁夫（大阪大学）

日本社会心理学会第50回大会と本学会第56回大会との合同大会は、2009年10月10日、11日、12日の3日間にわたって、大阪大学で開催されます（<http://www.wdc-jp.biz/jssp/conf2009/>）。合同大会は、広島大学での1986年以来、実に23年ぶりのことでもあります（既に1号通信で概要をお知らせいたしました）。暑い大阪ですが、この時期にはやや涼しさを感じられる頃かと期待しています。

最近の大会参加者や発表件数は非常に多く、プログラム編成および大会運営も窮屈になっておりますが、両学会の大会担当、日本社会心理学会の大会運営委員会、学会事務局の支援の下、会員の皆様の協

力を得ながら、大会を円滑に運営していきたいと考えております。

日本社会心理学会の創立50周年を記念した最近の研究動向を展望するシンポジウム、本学会や日本社会心理学会、アジア社会心理学会との恒例の合同企画などを検討しております。また、今回は韓国の社会心理学関連のいくつかの学会には参加を呼びかけており、一般発表やアジアの文化や社会心理学との関係についても検討しています。アジアに広がる研究交流、学会間の相互連携促進に通じるものがあるのではないかと考えております。

3日間の日程で、初日には、本学会の総会、2日目には、日本社会心理学会の総会を予定しています。なお、主会場の本学コンベンションセンターは、大きな会場（500名）の他に100名ほどの定員数の会議室が4つあります。シンポジウム、講演や口頭発表等は個々で行います。ポスター発表は隣接した体育館で行います。広いところですので、ポスター発表のニーズには十分に応えられますが、口頭発表については、場合によっては、調整させていただくことになるかと思います。自主的なワークショップについては、主会場の他に、人間科学部にて部屋を用意できます。なお、2日目夜の懇親会会場は、モノレール万博記念公園駅前にあるホテル阪急エキスポパーク（<http://www.htl-expopark.jp/cgi-bin2/cms2/index.cgi?hid=24hhexpopark>）で最大の部屋を用意してあります（会場からの移動はシャトルバス数台でご案内いたします）。

準備委員会では、それぞれの学会大会の特徴を生かすように努力をしていますが、いくつかの点で調整を必要としております（1号通信、申し込み要領をご確認ください）。歴史的にもそう容易には開催できない合同大会という「特殊事情」によるものとご理解いただき、ご協力のほどをお願いいたします。改めまして、多くの皆様のご参加とご発表をお待ちしております。

アジア社会心理学会について

アジア社会心理学会2009年度大会へのお誘い

唐沢かおり（東京大学）

次年度のアジア社会心理学会は2009年12月11日から14日まで、インドのデリーにて開催されます。アジア社会心理学会の会長であるNg先生より、グルダイ会員の皆様に、参加の案内メッセージをいただいておりますのでご覧ください（別添）。

案内にもありますように、グルダイ会員の皆様は、追加の会費なくアジア社会心理学会のメンバーになることができます。そのためには、手続きが必要ですので、まだの方は、下記のアジア社会心理学会のウェブサイトより手続きをお願いいたします。

<http://www.asiansocialpsych.org/>

なお、前回の総会でもアナウンスいたしましたとおり、アジア社会心理学会に参加する大学院生の方を対象とした渡航費用支援制度を立ち上げることになりました。応募資格に該当する会員の皆様は、ぜひ積極的にこの支援制度をご活用ください。詳細は、下記のグルダイHPをご覧ください。

http://www.groupdynamics.gr.jp/aasp_sien/index.html

事務局からのお知らせとお願い

実験社会心理学研究の特集テーマ募集

「実験社会心理学研究」には、グループ・ダイナミックスや社会心理学に関連する特集を掲載します。特集は、読みごたえのある論文3編程度で構成します。特集についての企画をお持ちの会員は、企画の趣旨、特集論文の概要等をまとめた企画書（A4版1 - 2枚程度）を、編集委員長に提出して下さい。企画の採択については、常任編集委員会で審議、決定します。特集論文の審査手順など詳細については、学会ホームページに掲載してあります。URLは、http://www.groupdynamics.gr.jp/journal/event_info.htmlです。ご参照ください。

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

なお、「実験社会心理学研究」は、特集の掲載によって、一般投稿論文の掲載に大幅な遅滞が生じないことを重視しています。企画を提出される方は、この点をお含みおき下さい。

実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

広報担当からのお知らせ

JGDA_Flash：グルダイでは【日本グループ・ダイナミックス学会 広報（速報）メールマガジン】（JGDA_Flash）を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員のみなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約600名です。グルダイ会員のみなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかと思います。登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、以下のアドレスのグルダイ広報メールマガジン運営担当マスターにお願いいたします。

office@groupdynamics.gr.jp

会員の皆様がお書きになった新著を、400字程度でご推薦いただき、上記までメールにて随時ご送付いただきたいと思います。なお、ご推薦の文書はなるべく著者でない方に書いていただき、ご著書に関する出版社等の情報とともに、その推薦の方のお名前とご所属などもお書きくださいますようお願いいたします。これまでに掲載された記事は以下のWEBで閲覧できます。

<http://www.groupdynamics.gr.jp/bookreview/index.html>

研究会案内等についてのニュース記事の掲載希望も大歓迎で受けつけています。上記のアドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、以下のWEBで閲覧可能です。

<http://www.groupdynamics.gr.jp/cgi-bin/magbbs2.cgi>

グルダイ学会関係連絡先

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレターの未着・メールマガジンなどのメール配信先の登録・変更・停止等の連絡先は、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

【事務支局】住所・所属変更、その他お問い合わせは

中西印刷株式会社 学会部 （日本グループ・ダイナミックス学会担当：糸魚川・岡田）

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 e-mail : jgda@nacos.com

学会運営・对外業務関連は

日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局

〒739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

広島国際大学 心理科学部 臨床心理学科 西村太志研究室

E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

投稿論文・学会誌編集関連

日本グループ・ダイナミクス学会編集事務局

〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-19-1

九州大学大学院人間環境学研究院 人間科学部門心理学講座 山口裕幸研究室

E-mail : jjesp_ed@hes.kyushu-u.ac.jp

ぐるだいのニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報などは

静岡県立大学看護学部 西田公昭研究室

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

TEL: 054-264-5486 Fax : 054-264-5099 (大学事務局)

E-mail : office@groupdynamics.gr.jp までお送りください。

また、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

(編集後記)(編集子) 今号のお届けが遅れて、遺憾にも新年度になってしまいました。会員の皆様におかれましても、この時節は何かと雑務に追われ、たいへんお忙しい方も多いことかとお察しします。私の場合、何か新しいことをはじめてみたい、そんな気持ちがわいてきたと思っていたら、あっという間に桜の花びらが舞い散るのを見て、この春もまた素通りしていくだけのようだと嘆いているこの頃です。さて、この仕事を担当して2年が過ぎました。今春、グルダイ学会も理事が入れ替わり、新体制が動き出しました。ただ私のお役目は、変わらぬようです。相も変らない至らぬ編集部ですが、今後ともよろしくご愛顧下さい。



8th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology

11- 14 December 2009

Indian Institute of Technology, Delhi

Dear JGDA Members,

You are cordially invited to the AASP conference to be held in India. As all JGDA members are eligible to become AASP members for free, you can enjoy the cheaper registration fees reserved for AASP members by joining AASP (if you have not yet joined).

How to join AASP? Information in Japanese is available from AASP's website <http://www.asiansocialpsych.org/> Click "Membership", follow the information for JGDA members, and you can become an AASP member for free.

India is quite a way from Japan, but there are convenient flights and our Indian organizers are working hard to make the conference scientifically worthwhile and socially enjoyable for participants and their accompanying friends and families. AASP will provide scholarships and prizes to eligible conference participants (please refer to the website).

On behalf of AASP I welcome you to participate in the conference and to contribute to its scientific and social activities. You can submit papers and register through the conference website <http://web.iitd.ac.in/~caasp09/index.php>

Yours sincerely,

Sik Hung Ng, President of AASP

Conference theme

Identity, Multiculturalism and Changing Societies: Challenges for Social Psychology in and about Asia.

Organizers

Asian Association of Social Psychology; National Academy of Psychology, India; Indian Institute of Technology, Delhi.

Several other leading Indian academic institutions are supporting the Conference to make it the biggest psychology conference to be organized in South Asia: University of Delhi, Jawaharlal Nehru University, NISTADS and Jamia Milia Islamia University.

Scientific programme

A very enriching academic programme awaits you, comprising keynote addresses, symposia, oral/poster presentations, pre-conference training workshops, and a School for PhD students taught by leading social psychologists.

The School for PhD students, to be subsidized by AASP, is intended to bring together PhD students from different Asian countries and help them become future leaders in Asian social psychology.

Bodhgaya

Temple



Sanchi Stupas



Sarnath



Tajmahal



Lotus

Temple(Bahai)

